

「学校支援ボランティア推進協議会事業」・「地域未来塾」

(国名称:「学校支援地域本部」事業)

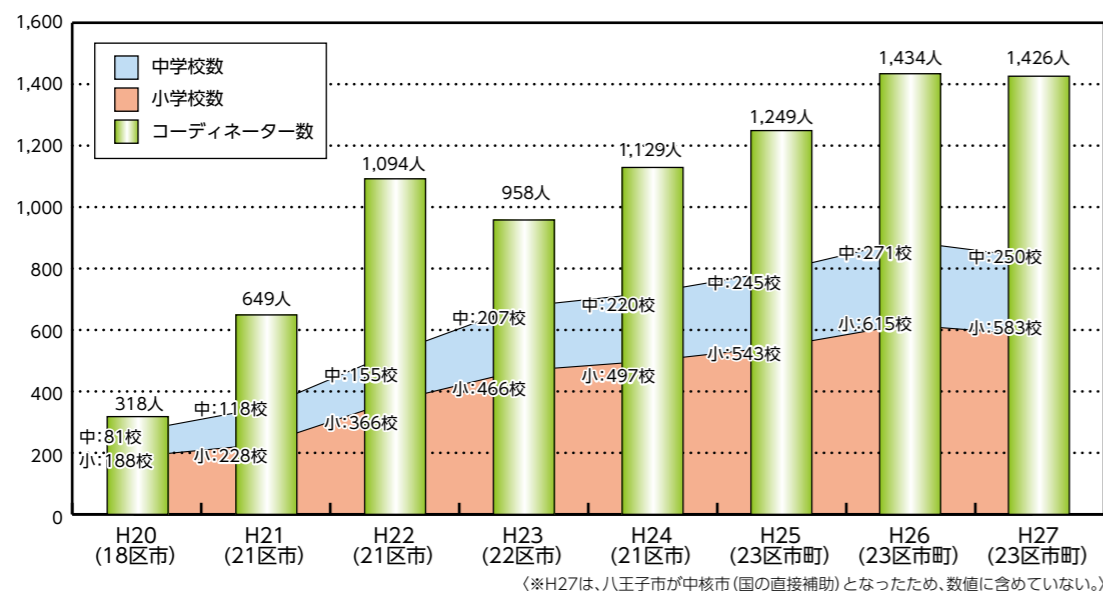
～学習支援が必要な中学生等を対象とした「地域未来塾」の取組がはじまりました～

「学校支援ボランティア推進協議会事業」について

東京都教育委員会では、区市町村において学校と地域が連携して地域住民や保護者等が学校教育支援を行い、地域全体で子供の教育活動を支えていく取組を支援するため、平成20年度から本事業を開始しました。

学校と地域住民等を調整する役割として、「地域コーディネーター」を配置し、学校のニーズを踏まえて「学習支援」「クラブ・部活動」「環境整備」「登下校安全確保」「学校行事」等それぞれ実情に応じた様々な取組を行っています。

学校支援ボランティア推進協議会事業 実績推移



その成果と課題の分析を目的としています。

対象は原則全学年。教科は主に国語・算数です。教材は、学校ごとの自作教材や、東京都教育委員会作成「東京ベーシックドリル」も適宜活用しています。「東京ベーシックドリル」は4月と11月に算数の診断シートを全校で活用しています。

その他、学校での学習の補完として、「eライブラリアドバンス」というICT(情報通信技術)を活用した学習支援サービスがあり、主に家庭での学習習慣の定着を図るという意味で活用しています。スマートフォン、タブレットにも対応するようにしています。

——ボランティア確保や関わり方はどのようにされていますか？

守谷指導主事 学生や退職教員等に協力をお願いします。特に近隣の大学等に声をかけていますが、学生さんの都合と学校の希望日が折り合わないこともあり、人材確保が課題となっています。

若井副校長 ボランティアの中には、「算数を教えるのですか？」というような不安を持っている方がいますが、学校として期待しているのは、丸付けをして褒めていただいたり、掛け算の九九で「ここは違うよ。」などと声を掛けていただいたりして、児童の学習を見守ってもらい、児童が意欲的に学習できる環境を作ってもらおうことです。そうしていくうちに少しずつ子供たちへの関わり方が分かっていけばいいと思っています。

——この事業によってどのようなことを目指していますか？

若井副校長 本校では、昨年度から放課後に「うきうきタイム」として補習を実施しています。その中の取組の一つとして、「百マス計算」を行った結果、どの学年も一定の成果が上がっていることが分かりました。本年度からはじまった学力向上推進校においても、引き続き、このような取組を実施して、学ぶことの楽しさを実感させながら基礎的・基本的な学力の定着を図ってほしいと考えています。



中高校生向け学習支援事業「1655(イチロクゴゴ)勉強cafe」

江戸川区文化共育部で所管している「1655勉強cafe」の事業について、「共育プラザ葛西」を訪問し、江戸川区文化共育部健全育成課の中條主査にお話を伺いました。

——「1655勉強cafe」をはじめた経緯は？

中條主査 この事業の会場「共育プラザ」は、児童館を改修し、中高校生の活動拠点としてリニューアルした施設です。事業は、これまでバンドやダンス活動以外に国際交流、防災、食育等の学習の事業も行っていましたが、本年度から区内6館の「共育プラザ」で、中高校生向け学習支援事業「1655勉強cafe」を開始しました。

各館ごとに実施曜日が決まっており、月曜日以外の毎日いずれかの館で実施しています。時間帯は、火～金16時55分～20時、土日14時～16時55分で、事業名称の「1655」は、この時間に由来しています。また、「未来に向かって一路Go! Go!」というメッセージが込められています。

——事業のねらいは？

中條主査 目的としては「学習習慣の定着」と「大学生との交流を通じた社会性の育成」です。中高生に年齢に近い大学生等が関わることで、将来感を描きやすかったり、自分の悩みを打ち明けやすかったりということも期待しています。「共育プラザ」を会場とすることで、日頃から利用している安心できる場所で気持ちも充足し、それが学習への意欲だとか学力の向上につながっていければと思っています。

——運営はどのようにしていますか？

中條主査 「NPO法人 キッズドア」に事業委託をして、大学生ボランティア5名、コーディネーター2名ということで、各会場に配置してもらっています。

参加方法は、初回のみ申込書(カルテのようなもの)を作成し、2回目から自由に参加できます。定員(20名)を超えた場合は各会場の状況で判断しています。

——集まった中高校生は各自自習をしているのですか？

中條主査 教材を持ち込んで自習をしたり、大学生等のボランティアによる個別学習指導や進路相談など様々です。一対一で机に向かって指導というよりはカフェのような気軽な雰囲気ですら自由で話せるような場となっています。

——参加者の様子はいかがですか？

中條主査 途中参加・退場ができるので、部活動が終わってから18時30分以降に来る参加者も多く、「参加のしやすさ」があります。また、コミュニケーションが取りやすい雰囲気があり、毎回の参加によって大学生ボランティアとの信頼関係もできています。卒業後の進路に悩んでいる参加者も多く、勉強とともに大学生ボランティアと話す機会を多く作るようにしています。

<参考>

- 江戸川区学校応援団 <http://www.city.edogawa.tokyo.jp/kyouiku/tokushoku/gakkouuendan/>
- 江戸川区の学習支援事業(平成28年4月20日 4・5面) https://www.city.edogawa.tokyo.jp/chiki/joho/kohodogawa/h28/280420/index.files/280420_45.pdf
- べんきょう応援サイト <http://www.city.edogawa.tokyo.jp/kosodate/benkyoshien/>
- 中高生学習支援事業「1655勉強cafe」(動画「区民ニュース」の紹介あり) <https://www.city.edogawa.tokyo.jp/kosodate/benkyoshien/1655benkyoucafe.html>

新たな取組としての「地域未来塾」

平成28年度から、これまでの学習支援を更に充実させるため、「地域未来塾」^(注)の取組が新たに開始しました。「地域未来塾」は学習支援が必要な中学生等を対象に大学生や教員OB等地域住民の協力やICT(情報通信技術)活用等により学習支援の機会を提供するものです。この取組によって、学習習慣の確立や基礎学力の定着を図ることを目的としています。平成28年度では、都内15自治体が実施しています。

そこで今回は、「地域未来塾」の取組を中心に紹介します。

(注)文部科学省は国庫事業として平成27年度から開始し、東京都は平成28年度から実施している。

事例紹介 江戸川区の学習支援事業

江戸川区では、これまで「学校応援団(学校支援地域本部)」の仕組みの中で、学習支援をはじめ多様な学校支援活動の基盤づくりに取り組んでいます。

今年度から、学習支援の取組を更に充実し、教育委員会や文化共育部、福祉部による各学習支援事業により、部署を超えて子供の成長を支援する取組が始まりました(参考)「江戸川区の学習支援事業」参照。

これらの事業のうち、「地域未来塾」の位置付けとして実施している小学生向け「確かな学力向上推進校(小中学校学習支援「学力向上事業」)」と中高校生向け「1655(イチロクゴ)勉強cafe」の取組を紹介します。

小学生向け「確かな学力向上推進校」(小中学校学習支援「学力向上事業」)

江戸川区教育委員会が所管しているこの事業について、守谷指導主事(指導室)と訪問先の江戸川区立宇喜田小学校の若井副校長にお話を伺いました。

——「確かな学力向上推進校」の取組状況についてお聞きます。

守谷指導主事 「確かな学力向上推進校」は、小学校71校のうち10校を指定し、地域の方々による「学習支援ボランティア」を配置して継続的な補習教室を行うモデル的事业です。この事業は、基礎的な学習内容を確実に定着させるための方策を実践し、